No４０２　　2026年１１月　November

「de mano(で まぁの)」は、牛豚肉を加工する「まぁの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まぁの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。
「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。
生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、
「手」作業主体の職人の技術で肉を加工する
という意を込めています。

まぁの から de mano

エスペラント語で「mano」は「手」、「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まぁの　【火曜定休】
兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6
☎ 06-6495-2546
📠 06-6495-2900
✉ mano0298@snow.plala.or.jp
HP　https://www.e-sora.net/mano/

心に沁みる暖かい時間

―大鹿村へ―　　９月 27 日

久しぶりに一人で大鹿村へ。１時過ぎに中学校に着くと、多くの車がグラウンドへ誘導されて行きます。私も停めさせてもらいました。歌舞伎の行われる体育館はすでに満席状態。舞台に近い席は座布団、後ろにいす席が並んでいます。私は正座できないのでいす席の端っこに座らせてもらいました。中学校の全校生徒は２６名ほどだそうです。３年生を中心に役を得た生徒以外は黒子などで全員参加です。開演前に、黒子スタイルの１年生が歌舞伎の楽しみ方や、今回の演目のあらすじなどを説明してくれます。

嵐のようなおひねり

さて「絵本太閤記　十段尼ヶ崎の段」が始まります。香糸さんの娘・颯美さんは光秀の母皐月の役で老婆スタイルです。それぞれの役に見えを切るなどスポットライトが当たる場面があり、それを待ちかねて観客から「よっ！　日本一！」とか「待ってました！」などと掛け声がかかり、嵐のようにおひねりが飛んでいきます。私もあらかじめ聞いていたので小銭を半紙に包んでいったのですが、タイミングがわからず、距離も届かず、へなちょこでした。“嵐のように”は誇張ではなく、役者が決めるたびにダーッ！　と演者が見えなくなるほどのおひねりが、掛け声とともに飛んでいきます。皆さん前夜に何百というおひねりを用意して袋に担いで乗り込んでくるのです。これが芝居の終わるまで１時間半ほどずっと続きます。まさに演者と観客が一体となった地芝居の魅力そのものです。



後で聞いた話では、おひねりに入れる小銭は１円では軽すぎて飛ばない、５００円では重すぎて危ないしお金が続かない、１０円玉３枚くらいが適度の重さで飛びやすいし、数が作れるとのことです。でも中には音のしない方も小銭に混ぜて入れてくれる人もいるのだとか。

終演後外に出ると霧雨が降っています。土屋道子さんに乗ってもらい青木家に向かいます。熱いお茶をいただいてから牛舎に行きました。久しぶりに牛たちと対面し、青木さんの説明を聞きます。まぁのの扱うのはあと７頭。奥に４頭いるのがさんさんファームで扱う分です。さんさんファームとしては２ヶ月に１頭ペースで出荷していく予定です。スムーズに移行していくのを祈るばかりです。

みんなが集まる



夜には「延齢草」に、福沢良紀さん、土屋道子さん、青木連さん・彩さん夫妻、紺野香糸さん・颯美さん親子が集まってくれました。宿のシェフ小林野花（やおい）さんが腕によりをかけて準備してくれた御馳走が並びます。一つ一つの料理にコメントをつけてくれます。さらに宿主小林俊夫さんの計らいで、用意してある日本酒、ワイン、ビール全て無料で提供して下さるとのこと！

野花さんいわく「父にとってはそれほど、皆さんにお会いできるのがうれしいことなんです」。私はそれを聞いて思わず胸が熱くなりました。

そこへ俊夫さん登場。俊夫さんらしく舞い上がることなく、一人一人に挨拶されます。「俊夫さん、シャツの一番上までボタンつけちゃって！」連さんが茶化しますが、俊夫さんあくまでも冷静。「いやー、もう認知が進んじゃってだめだ。この前も後期高齢者講習で運転したら、バックがはずれちゃって」。それは誰でもそうです。認知なんかじゃありません。81 歳で確かに言葉が少しスムーズに出なくなりましたが、反権力・反リニアの心は相変わらず熱く燃えています。彩さんはもう妊娠７ヶ月でかなりおなかが目立ってきました。順調のようです。村の仲間でゴスペルサークルを作ったとかで、今度はぜひ一緒に歌いましょう。颯美さんは反抗期絶頂で、母と一緒に入ってきても「あ～、ちかれたび～」と倒れこんで、顔もまともに合わせない。でも貴重な機会だし、一応まぁののこれまでの歴史、青木家との牛を通じたお付き合いを簡単にまとめて話しておきました。

俊夫さんのお話で興味深かったのが、２００４年の町村合併騒動です。当時大鹿村は隣の松川町との合併話が進んでいました。村長や商工会などは合併して商機を見つけようとしていました。俊夫さんや青木清さんは住民サービスがおろそかになる、と反対で、合併協議会に乗り込み結論を出せないようにして、住民投票に持ち込みました。結果村民の声が反映されて、大鹿村は合併を拒否したのでした。

二度と戦争を繰り返さない

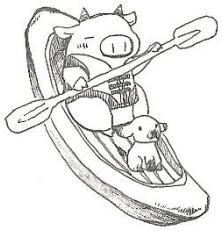
改めてこの延齢草のいわれをお話しておきます。戦後新しい中学校を建てる際に村にお金がなく、お金にゆとりがある人は差し出して、山持は木材を提供、建設に労力を提供した人もありました。悲惨な戦争が終わって、これから新しい平和憲法のもと、村をみんなで作っていくんだという機運が高まっていました。そんなみんなでつくった中学校ですが、時を経て建て替えることになり、村は取り壊す予定でした。俊夫さんたちは戦後民主主義の象徴ともなった中学校を保存してほしいと訴えました。結果村とのやり取りの末、俊夫さんが新しい家一軒を建てるほどの自己負担で中学校を解体移築して、民宿としてよみがえらせたのです。そして中学校の校章のモチーフに使われていた花の名前を付けたのでした。

一気に涼しくなりました

希望農場・９月農場たより　清野　光弘

今年の夏はここ２、３年の中では涼しい夏になりました。３０℃を超える日は数日しかなく昨年までのように１０日を超えませんでした。９月に入ると朝晩の冷え込みも強くなり、もう少しでストーブの出番がやってきそうです。ただ全国を見ると今年も大雨・豪雨がひどく、これまでにないくらいの災害が起きています。田畑、住宅が水に浸かり、車が道路の真ん中で立ち往生してしまっていました。これまでもゲリラ豪雨はありましたが、こんなに全国広範囲で起こってしまったのは初めてではないでしょうか。被災された方たちが元に戻すために、暑い中作業をしているのには頭が下がります。

そして８年前にここ厚真町で起きた震災のことを思い出さずにはいられません。毎日、ガレキの撤去や家の中の修繕や整理をしていました。このときにボランティアの人たちの助けがあり、今でも感謝をしています。それとコープ自然派の皆様からあたたかな志もいただき、改めてお礼を申し上げます。



放牧豚たちも今年は少し過ごしやすかったと思います。２５℃を超えると日陰でグッタリと横になっていますが、９月に入って気温も下がり、夕方に２０℃を下回ると持ち前の元気さを取り戻して、農場を走り回っています。北海道は雨が少ないせいか農場内は土がカラカラに乾燥していて、放牧豚たちが走ると土ぼこりが舞い上がります。もう少しすると、農場の周りの木も赤や黄色に紅葉してきます。

皆様はいかがお過ごしでしょうか？　雨の被害にはあっていないでしょうか。まだまだ暑い日が続きそうです。身体には十分お気をつけてください。やはり、健康が一番です。私たちも身体に気をつけて皆様に美味しいお肉をお届けできるように頑張ります。

ニ　ク　ヤ　ノ　ツ　ブ　ヤ　キ

◇　秋夜長　夫婦揃って「黙示録」
斎藤幸平さんは“気候崩壊”を訴えています。そんな地球で戦争などしてる場合でしょうか！　（幸治）

◇　脱気シーラーの調子が良くなくてシールが綺麗にできません。部品を取り寄せて交換してみましたが、結局修理依頼することに…、残念！　（幸子）